当院におけるアンチバイオグラム作成と医師への周知活動について

◎大比良 久美子[1)]、石山 家寿[1)]、吉田 佳奈子[1)]
一般財団法人 三友堂病院[1)]

【はじめに】アンチバイオグラムとは抗菌薬感受性率表の事で、院内で一定期間に検出された微生物に対し抗菌薬ごとに感性率を表形式に集計したものである。敗血症などの重症感染症における初期治療の抗菌薬選択時に有用性が高い。

【当院におけるアンチバイオグラムの作成】

当院は200床以下の中小病院である。細菌検査は院内で実施しているが、一部の検体は外注先に検査を依頼している。当院では2015年のJANIS参加をきっかけに院内と外注の結果を統合したデータが集計できるようになり、
アンチバイオグラムの作成を開始した。作成当初は、薬剤感受性パネルに搭載された全ての薬剤をアンチバイオグラムに収載していた為、情報量が多く視認性に問題があった。
ICD・ICT・薬剤部と検討を重ね2017年からは、院内採用点滴静注用抗菌薬の感性率のみの収載に絞った。また、裏面には経口・点滴静注抗菌薬の系統別にまとめた表を添付した。
本来アンチバイオグラムとは、起炎菌の薬剤感受性が判明するまでのエンピリック治療に力を発揮するものである為、電子カルテの抗菌薬処方画面に掲載を依頼したが、当院の電子カルテシステム上、対応が難しいことがわかり断念した。
2018年からはポケット版を作成し希望する医師に配布を行っている。

【医師への周知活動】作成当初アンチバイオグラムは、感染対策委員会への報告と、臨床医への机上配布、電子カルテ前の掲示のみであった。2018年からは医師に対面で配布し、アンチバイオグラムの見方と、解釈の注意事項、院内耐性率などを説明している。

【まとめ】今回、アンチバイオグラムの“使い勝手”にこだわって内容を見直し、さらに臨床医に対面で配布・説明を行った。結果的に認知度が向上し、また臨床医からのニーズをくみ取ることができた。

【連絡先】一般財団法人　三友堂病院　中央検査部
0238-24-3700